

学校便り

第338号
平成27年3月2日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

「節目」と「のりしろ」

校長 鈴木 隆志

「だいじょうぶ？」 力をかすよ ともだちだもの

この言葉が学校の中で息づいています。4年生のある子が体育館からアンプを運んできました。ちょっと重そうです。すぐ後ろに友達がついてきています。「だいじょうぶ？」と声をかけると、友達は、はっと気付いたようです。一緒にアンプを持ってあげていました。1年生の子供たちが、休み時間のサッカー遊びでケンカになってしまいました。よくよく事情を聴いた後、互いに謝り、仲直りができました。仲直りの言葉は『「だいじょうぶ？」 力をかすよ ともだちだもの』です。

1年生も、この一年間で大きく成長をしました。園児から小学生になっての一年間なので、特に変容を感じるのかもしれませんが。他の学年の子供たちも、それぞれに大きく成長を遂げています。そんな光っ子たちが、もうすぐ進級・進学の時を迎えます。「節目」を大切にしたいと考えます。進級・進学の喜びには、強い思い（決意）が必要です。よいところは引き続き伸ばして膨らませていこうとする決意、足りなかったところは補おうとする決意、できなかったところはできるようにしていく決意、初めてのことに挑戦しようとする決意、そういう強い思いが欠かせないのです。光っ子たちそれぞれの決意は、いつ立てればよいのでしょうか。4月になってからではありません。節目を迎える前、今、3月にこそ、思いを強くして決意につなげていってほしいと願っています。

3月は、「のりしろ」の時です。例えば、5年生は、就学時健診で新1年生のお世話をしたり、1月・2月の光っ子活動を計画・運営したりする経験を経て、3月は、新年度クラブ活動の発足に向けての準備や、地区班編成で新リーダーになるなど、卒業していく6年生からのバトンタッチの「のりしろ」の活動が始まります。4年生も、1/2成人式を終えて、“半分大人”の気持ちで、高学年になっていくための「のりしろ」の活動をしていきます。他の学年もみな同じです。

学校もまた、今年度から新年度へとつなぐための「のりしろ」の作業を進めているところです。今年度を振り返る材料は、学校・教員の自己評価だけでなく、保護者・地域へのアンケート、児童へのアンケート、学校評議員による学校関係者評価などです。これらをもとにして、新年度計画を立案中です。来年度は、わかば学級が開級して10年目の節目を迎えます。光っ子たちみんなで、わかば学級の10年目をお祝いしていこうと考えています。

学校を取り巻く状況も日々変化していきます。『教育だより』170号でお知らせしたように、練馬区教育委員会では、平成20年度から導入してきた二学期制を改め、平成28年度から新たな三学期制への移行が決まりました。また、平成30年度からは、道徳が教科化される見通しです。小学校英語教科化に備え、練馬区では来年度からALT（Assistant Language Teacher 外国語指導助手）を全小学校に配置します。平成32年度には大学入試制度も変わると言われています。今の6年生が大学受験をする時です。動向をきちんと見据え、対応していきたいと思えます。

3月11日は、東日本大震災から4年という節目でもあります。先のことばかりに意識が向き、大事なことを見失ってしまわないようにという思いも、強く持ち続けています。